

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成29年12月13日
No. 116

みなさんはバリアフリーって、どんな意味なのか知っていますか？「バリア」はジャマをするもの、「フリー」はジャマなものがない状態という意味です。

「バリアフリー」とは、もともとは建築用語で「バリア（障壁）」を「フリー（のぞく）」状態にする。つまり障壁となるものを取り除き、生活しやすくすることを意味しました。建物内の段差など、物理的な障壁の除去と言う意味合いから、最近ではより広い意味で用いられるようになっていきます。

〈4つのバリア〉

- 1 機械・建設・都市環境における物理的バリア
- 2 資格制限、大学などの入試制度、就職、任用試験などにおける制度的バリア
- 3 点字や手話サービスなど社会保障の欠如による文化・情報面のバリア
- 4 心ない言葉や視線、障害者を庇護されるべき存在としてとらえられる等の意識上の障壁（心の壁＝心のバリア）

○ 北条高校内と近くの歩道橋、JR北条駅のバリアフリー



写真1



写真2



写真3



写真4

4つのバリアの中で、私たちが思いつくのは、「物理的バリア」や「制度的バリア」です。身近な物理的バリアフリーでは、北条高校内での玄関前のスロープ（写真1）、多目的トイレ（写真2）、JR北条駅構内の点字ブロックと車いす利用者や小学生が買える高さの低い券売機（写真3）、高校近くの緩やかな勾配で点字ブロック・手すり付きの歩道橋（写真4）などがあります。

松山市の繁華街では、音響式信号機や段差がないノンステップのバスや電車、街を歩いていると段差のない道路や介助犬同伴可のお店も目にします。郊外のショッピングセンターでは、物理的バリアフリーが完備していることに気がきます。学校で取得する資格や、大学や専門学校・就職での制度バリアは、身近に感じています。しかし、文化・情報面のバリアや心のバリアは知りませんでした。



ノンステップバス

○ 心のバリアフリーとは・・・

人々の多様性を理解し、性別や年齢、障害等に応じた適切な配慮を行い、社会のバリアを取り除くこと。高齢者や障害者への理解、配慮、思いやり、気軽な声掛け、支援等の重要性が認識されるようになってきています

○ 私たちにできる心のバリアフリー

- 1 困っている人がいたら気軽に声をかける。
- 2 道路や点字ブロックの上に荷物を置かない。
- 3 通行人のジャマにならない場所に、自転車を止める。
- 4 電車で座っているときに、体調が悪そうな人に席を譲る。



《今回、調べて気付いたこと》

- ・ 私たちは、今回バリアフリーについて調べて、改めて障がい、年齢、性別にかかわらず誰もが住みやすい環境は大切だと気付きました。
- ・ まだバリアフリーが整備されていない所もあるので、バリアフリーの設備・施設を増やすべきだと思いました。
- ・ 人それぞれ生活のバリアは異なってくると思います。だから自分目線だけではなく、もっと周りのことに配慮して生活していきたいと思います。そうすれば、自然と「生活」のバリアだけでなく、「心」のバリアもなくなると思います。

次回の放送は1月17日(水)です。 お楽しみに・・・

担当 201・202 人権委員